

花柳壽應賞 過去の受賞者

回数	受賞者	受賞理由
第27回新人賞 (平成25年)	花柳 典幸	日本舞踊協会主催第55回日本舞踊協会公演の「水滸伝曾我風流」の鴛鴦の精における端正な技術と艶のある表現、また国立劇場主催舞踊公演『菅原草紙』の「寺小屋の涎くり」における涎くりの自由闊達な演技において優れた成果を示した。
第26回新人賞 (平成24年)	尾上 菊之丞	平成23年8月、国立劇場で開催した家元継承襲名披露舞踊会において、「船弁慶」等の古典作品並びに新作「梅雨將軍信長」の構成、演出、振付、演技に極めて優れた成果を示した。
第25回新人賞 (平成23年)	該当者なし	
第24回新人賞 (平成22年)	藤間 勘右衛門	「勘右衛門の会」の「綱館」と「達陀」において、格調ある演技とダイナミズムを表現した
第23回新人賞 (平成21年)	藤間 万恵	国立劇場主催花形・名作舞踊鑑賞会「関の扉」の墨染をはじめ、近年の古典作品における著しい進境と創作舞踊への意欲的な試みに対して
第22回新人賞 (平成20年)	山村 若	山村流六世宗家として上方舞の継承、発展につとめ、今後の期待も大きい。「第5回山村若の会」においては、芸術祭優秀賞を受賞、「融」の再演を試みるなど、創作意欲も旺盛で高く評価できる。
第21回新人賞 (平成19年)	花柳 錦之輔	第九回花柳錦之輔花柳典幸勉強会における「廓の寿」で祖父花柳壽楽作品の継承に意を尽くすとともに、日本舞踊の古典に対する意欲的な取り組みとその成果に対して
第20回新人賞 (平成18年)	西川 箕乃助	第7回西川箕乃助の会の成果及び年間を通し古典の維持保存に尽した功績に対して
第19回新人賞 (平成17年)	花柳 貴代人	第2回花柳貴代人の会における古典と創作の成果に対して
第18回新人賞 (平成16年)	花柳 輔太郎	社団法人日本舞踊協会主催第20回創作舞踊劇場公演「薔沙薇の女—カルメン2003—」の振付に対して
第17回新人賞 (平成15年)	市山 松之助 (現・松扇)	第45回日本舞踊協会「小鍛冶」他、年間を通じての多岐にわたる充実した舞踊活動に対して
第16回新人賞 (平成14年)	該当者なし	
第15回新人賞 (平成13年)	該当者なし	
第14回新人賞 (平成12年)	花柳 小三郎	第5回花柳舞踊研究会別会における「勝三郎連獅子」の親獅子と第6回「基の会」における「難波いせ道」の女と、対照的な二つの役柄に実力を発揮した
第13回新人賞 (平成11年)	該当者なし	
第12回新人賞 (平成10年)	吾妻 徳彌	第11回「徳彌の会」における「赤猪子」、「鐘の岬」の成果に対して
第11回新人賞 (平成9年)	藤間 蘭黄	社団法人日本舞踊協会城東ブロック公演の「紅葉狩」、第18回蘭景の会の「八段目」奴可内など、年間を通しての充実した演技に対して
第10回新人賞 (平成8年)	花柳 基	第4回「基の会」における「黒塚」の成果に対して
第9回新人賞 (平成7年)	藤間 恵都子	リサイタル「第三回恵翔会」における古典と創作の成果に対して
第8回新人賞 (平成6年)	泉朱緒里 (現・徳右衛門)	「泉朱緒里リサイタル」の「お夏笠者狂い」と「あたま山」の成果に対して
第7回新人賞 (平成5年)	該当者なし	

花柳壽應賞 過去の受賞者

回数	受賞者	受賞理由
第6回新人賞 (平成4年)	該当者なし	
第5回新人賞 (平成3年)	若柳 壽延	「第2回若柳壽延リサイタル」の成果と期待される今後の活躍に対して
第4回新人賞 (平成2年)	井上 三千子 (現・八千代)	国立劇場「舞の会」の「相模海士」などの演技と伝統維持の成果に対して
第3回新人賞 (平成元年)	橘 芳慧	「橘芳慧の会」と日本舞踊協会創作舞踊劇場「水柳」などの振付・演技に対して
第2回新人賞 (昭和63年)	尾上 菊之丞	「初代尾上菊之丞を憶ふ会」と「冬夏会」の充実した舞踊活動に対して
第1回新人賞 (昭和62年)	花柳 寿美	円形劇場における「雙蓮花譜」をはじめとする意欲的な創作活動に対して
第15回 (昭和61年)	井上 八千代	永年に亘る京舞の業績と、なお第一線にあつて門下を指導し、ことに60年度の祝四世井上八千代傘寿「京舞」において多大な成果を収めた功績に対して
第14回 (昭和60年)	若柳 吉三次 (現・鵬翁)	永年にわたり古典舞踊の研鑽を積み、優れた技芸をもって充実した活動が続け、舞踊界に貢献した業績に対して
第13回 (昭和59年)	西川 扇藏	近年充実した業績を挙げ、着実に成果を示し、将来にいつその期待を托させた点に対して
第12回 (昭和58年)	泉 徳右衛門	永年に亘り水準の高い技法をもって、古典・新作ともに充実した活動が続け、すぐれた成果を示した功績に対して
第11回 (昭和57年)	藤間 友章	優れた技芸をもって古典舞踊の充実保存に努め、創作、振付に、より多大な成果を収めた業績に対して
第10回 (昭和56年)	吉村 雄輝	洗練された上方舞の技術をもって、舞踊界に新風を吹き込み、舞の現代的意義を認めさせた功績に対して
第9回 (昭和55年)	花柳 茂香	第4回「日輪の会」の作品「激つ」において示した振付、演技の充実した力倆と、従来より創作舞踊の新生面に与えた業績に対して
第8回 (昭和54年)	花柳 昌太郎	永年に亘り水準の高い技法をもって舞踊界に貢献し、ことに「古径の会」で示した充実した技倆に対して
第7回 (昭和53年)	榎茂都 陸平	永年に亘る古典および創作活動の業績と、なお第一線にあつて門下を指導し、ことに52年度の榎茂都陸平雅筵において、多大な成果を収めた功績に対して
第6回 (昭和52年)	藤間 秀斉	永年にわたり優れた技芸をもって近年いよいよ滋味を増し、古典舞踊の充実保存に努めた
第5回 (昭和51年)	花柳 寿南海	現代に生きる古典舞踊の技法の確立、その円熟とともにおどりを研究する会を主宰し舞踊界に尽した功績に対して
第4回 (昭和50年)	花柳 壽楽	多年に亘る創作活動の成果と、近年益々充実せる、華麗にして重厚な古典舞踊の演技力に対して
第3回 (昭和49年)	吾妻 徳穂	近年頃に優れた演技力をもって、伝統的日本舞踊を基盤とする清新な舞踊創造に努め、多大の成果を収めた業績に対して
第2回 (昭和48年)	武原 はん	多年に亘り古典舞踊の研鑽に励み優れた技芸をもって独自の芸境の創造に努め、日本舞踊の向上発展に寄与した業績に対して
第1回 (昭和47年)	藤間 藤子	永年に亘り優れた技芸をもって、古典舞踊の維持保存に努めた業績顕著なるにより